

雨の降る日のアフォリズム 3

平居 謙

7 時間

今月もあまりにも早く時間が過ぎた、と
驚くように人々は言う。
確かに卓上カレンダーの小さな紙面の上では
時間は一瞬にして去り行くかのようだ。
しかし見よ、壁につるされた大判の書き込み用カレンダーの中には
時間が黄河の水のように実に悠々と流れている。

8 室内

室内に閉じ込められた時、
生き物は二種類の反応を選択することが可能である。
物見遊山の類に行けないことを鬱々と考え続け
自らの運命を呪う灰色のセーターを着た男のようになるか
もしくは
黄色と橙色の嘴をお互いに自慢し合うかのように
楽し気に囀る小鳥たちのようになるか
私ならば檻の中をそれとは知らず、自らの全世界と考えて走り回る
奇妙な蝦蟇のような存在であり続けたいと思う

9 夜明け

興が乗ってきたところに夜明けはやって来る
夜明けを喜ぶ人は闇の歓びを知らない愚か者だ
夜明けに差し込む
阿呆のような一閃の光によって
化け物たちのように消えてしまうがいい